

## 平成27年度福井県男女共同参画審議会開催結果

### 1 開催日時

平成28年3月24日（木）14:00～16:00

### 2 開催場所

県庁6階大会議室

### 3 出席者

#### (1) 委員

10名（石井委員、塚本委員、小泉委員、野添委員、法山委員、踊場委員、吉川委員、福井委員、川岸委員、山内委員）

#### (2) 事務局

総合政策部ふるさと県民局長、女性活躍推進課長、女性活躍推進課員、女性活躍推進会議幹事課員、生活学習館職員

### 4 概要

#### 議題1 第2次福井県男女共同参画計画（H24～）における施策の状況

(事務局)

説明

(委員)

来年度から県が実施する病児保育施設への送迎サービスについて高く評価している。評価する理由の1点目は、これまで子育て支援については、保育時間の延長、病後児保育、病児保育と段階的に拡充してきているが、残っていた課題が、職場に突然「お母さん、お熱です。迎えに来てください。」という電話がかかってきた時の対応だった。これは、責任ある仕事をしていこうという女性にとって大きな課題である。2点目は、病気時の送迎を行政が行うという意義。やはり世間の意識としては、「小さな子はお母さんが見て当然」という意識が強くある。お母さん自身も見てあげたいけれども、それができないという辛い負い目の中で、世間からの冷たい目がある。行政がこういうサービスを打ち出したことで、そういう意識に風穴も開くと思う。

また、就学未満時については、時間にしても、病気の時の対応にしても非常に行き届いてきて、一揃いそろったと思う。しかし、子育て世代の今の悩みが「小学校の壁」といわれているもので、小学校にあがった途端に、放課後預かってくれるところはあるが、親が迎えに行く時間が一気に繰り上がる。結局、親か親に代わる人が迎えにいかなくてはならない。子どもが小学校に上がるから仕事を辞める人もいる。中学校においても同様の問題がある。

(委員)

いわゆる「小1の壁」というのも、福井県だけではなく、全国的に問題になっているという現状もある。先ほど委員から提案があったように、小学校の児童に対しても、病気時の送迎サービ

スの支援があると非常にお母さん達は楽になると思う。同時に、委員が言ったように、制度があっても、意識的にまだまだ「母親が面倒をみるべき」ということがあるので、意識面、制度面での改革・改定が必要なのではないかと思う。

(委員)

病気時の送迎サービスについて、保育園はどのように対応するのか具体的に教えてほしい。

(事務局)

この事業については、県の人口減対策の戦略に基づいた事業で、国の方でも来年度から予算化されるということで、それを利用した形で事業を考えている。国の方で事業の実施要綱等が出ていないので、具体的な流れと言うのはご説明できないが、病児保育施設が県内に19か所あるので、その中のどこか1箇所ですまずは始めたいと思っている。親御さんから連絡を受けて、その病児保育施設の看護師が保育園の方にお迎えに行く。病院で診断を受けて、そのまま病児保育施設の方でお預かりする、というふうな流れで想定している。

(委員)

子ども向けの出前授業について、実は私も1年余り小学校へ行って出前授業を行っており、新聞の役割や作り方などをいろいろ教えている。小さい頃からこういう教育をすると、すごく理解も進むので、次年度以降も継続いただきたい。ただ、例えば献血とか、税務署など出前授業もたくさん行われており、意外と学校がそれに対応できない。学校では通常の授業があり、その中に出前授業を組み入れていくため、なかなか学校側も受け入れが難しいところがあるかと思う。しかし、出前授業を積極的に実施し、カリキュラムなどをわかりやすいものとし、改善しながら継続いただくと、より理解が深まるのではないかと思う。

(委員)

出前授業を受けた学校に聞いてみたところ、「事前の準備や後始末もなく、学校にとって負担がなかった。さらに、学習指導案もあり、わかりやすい掲示物を使っての授業だったので、子どもたちにとっても理解しやすい内容だった。」との意見であった。この学習指導案があれば、これまで実施していなかった学校でも取り組みやすくなると思う。

学校では、NIEや男女共同参画、税金、人権など様々な出前授業が行われているが、それぞれ子どもたちにとっても役立っている。専門の方から教えていただくことは有意義なことである。ただ、文科省の指導要領の中で教科・領域の授業時間数が定められており、全てを受け入れることは難しい。

以前にもお話ししたが、福井県では「私の夢カルテ」という小学校4年生から中学校3年生を対象としたキャリア教育の副読本が作成されている。それを活用した学習の中で、子どもたちは、いろいろな職業観を学んでおり、今回のような男女共同参画の在り方について学ぶ機会もある。

そうした効果的な取り組みを、それぞれが単発に行うのではなく、横断的に行ったり、互いに連携し合ったりすれば、「あの活動でこんな勉強をしたのを、この活動でこういう風に活用すると良いかな」というように、もっと有効に活かせるのではないかと思う。

(委員)

先日、東京のキッザニアで、中学生の保護者の皆さんを対象にした講演を行った。そこでは、例えば1つの部屋に弁護士とか、大学の先生など、様々な分野の人がラウンドテーブルのように座っている。中学生は自分の関心のある所へ行って、話を聞くというもの。個別にやるのも効果的だと思うが、一大イベント的に行うと、選択肢があって、積極的な参加につながる。もちろんそれは、民間の企業がやっていることなので、そのまま教育に反映することはできないが、アイデアはそこにあるかなと感じた。

(委員)

女性活躍の推進に関してクリエイティブな事業を展開されていて素晴らしいと思う。しかし、男性が学ぶ機会が少ないという感想を持っている。育児休業に関する研究では、15年間くらいのデータを見ると、以前は妻に言われたから育児休業を取っているという人が圧倒的に多かったが、最近はもう少し自発的にやっている人達が多い。それを考えると、お父さんたちが自分で意識を高めて、自分で家事や育児をやるようなプログラムも必要と思う。同時に、お父さんは子どものために何か良いとなると行動する。これは、父親の研究を長年やってきて、いつも研究結果で出ることである。実技試験のように子どもを含めて一緒にやるようなイベントやプログラムがもう少しあっても良い。もちろん女性のプログラムは続けて行っていただきたいが、男性にも少し焦点を当てたようなプログラムも必要ではないかと思う。

(委員)

県民に対する意識調査のデータを分析したが、確かに「男は仕事、女は家庭」という考え方に否定的な男性で、男性が家事をすることに肯定的な人は、確かに家事の意識が高い。このため、男性の意識が変わるといのはかなり重要な部分だと思う。男性への働きかけは非常に重要である。

小学生に対する出前授業について非常に素晴らしいと思う。子どもが病気の時に「なぜ母親が見てあげないんだ」というようにまだ世間からは思われてしまう。お父さんであれば、好意的に「お父さんが休んでこられて素晴らしいですね」みたいな話になるという、まだものすごいバイアスがかかっていると思う。これは、一朝一夕には変わらず、子どもの頃から息の長い働きかけが必要ではないかと思う。その中で、他の家庭と比べてどうなっているのか、というような意識は、子どもの頃から、押し付けるのではなく、自分達でお父さんもお母さんも働いているのだったら、家事・育児・介護をどのように分担したらいいのかな、と実際に考える機会を与えるのは非常に重要だと思う。

さらに、先ほどの様々な出前授業の連携について話があったが、まさにその通りだと思う。当大学でも、キャリア教育を男女ともにやっているが、どう働くかが主になっていて、家事や育児とどうやって両立していくか、という論点というのはあまり体系付けては行われていない。ただ、家のだれかが、何らかの形でやらなくてはならない部分はもちろんあるわけなので、そういったことを含めて、将来どんな働き方をするのかということを考えてみるというのは、絶対落としてはいけない部分だと思う。自分の大学の教育も含めて、いろんな面で誰が家事・育児・介護を分

担していくのか、ということに関しては息の長い取り組みをして、意識を変革していくということがぜひとも必要だと考えている。

(委員)

やはり小さい頃からの意識付けが非常に大切だと思う。保育園の遊びを見ている、幼稚園の年長児では、すでに女の子はお母さんみたいな役割の遊びをするし、男の子はお父さんみたいな男だという遊びをする。5歳・6歳で、すでに男はこう、女はこうという認識ができあがってしまうのかなと思う。それと、自分よりも上の世代は、なかなか意識改革するのも難しい。大人の意識を改革するよりも、小学校の頃から考えを浸透させていくという方が良いと思っている。

小学校の出前授業はすごく良いと思う。自分の小学生の子は、授業の話は一切しないが、こういう出前授業の話だと家庭でよくしてくれる。それだけ子どもの中にも入っているのかなと思うので、ぜひやっていただきたいと思う。

また、男性の視点も大いに必要かなと思う。保育園の行事を取り上げると、男性の方は意外と積極的に行事に参加しており、子どもと絡めたりすると力を発揮する。男性の意識改革も進める必要がある。

(委員)

男性の家庭参加について、去年の「未来きらりプログラム」で講義した際に、自分達は今何ができるかというテーマでグループディスカッションをしたところ、参加者からは、夫が何かできるかと言う話が全く出てこなかった。もうあきらめているのか、もう男はしないというのが当たり前になっているのかなという感じで驚いた。福井県の女性で活躍しようとしている人達や活躍している人達はあまり夫に頼っていないのかなという印象を強く持った。このため、男性を対象にした施策があると良いと思った。

また、「製造業リーダーコース」について非常に面白いと思う。最近全国の大学でも、「リケジョ」という女性の少ない理系分野に女性を送り込み活躍してもらおうというようなことが、非常に難しいことだが、課題になっている。今回のこの「製造業リーダーコース」は、そういう意味でも非常に重要なものであると思う。同時に、私も企業調査でいろいろ分析した時に医療福祉関係ではやはり女性も活躍している。それはもうサプライズではない。しかし、製造業のみならず、例えば建設業なども女性の活躍は進んでいないという結果が出ている。このため、まず、この「製造業リーダーコース」でまずトライしてみて、何かここで学んだことを他の業種にも活かせるようなコースができるのではないかなと思う。

(委員)

当社では、ふくい女性ネットにも参加していたが、女性活躍のためにいろいろな制度を整えるまでは行っていないのが現状。実際、国の政策でも女性活躍が進められているので、環境づくりをしなければならない状態になってはきているが、では具体的にどういうことをしたら良いのかということになると、あまり考えが思いつかない。このため、経営者セミナーや部長セミナーを頻繁に開催していただいて、男性中心の業種の経営者や総務担当者の方に、具体的な取り組みを学んでもらうというのが良いと思う。

(委員)

当社で女性の班長や主任を作るというと、女性がなかなか責任ある立場に就きたくないということがある。男性にも見受けられるが、女性の方がもっとそれが強いように思う。それは、小さい時からの意識の積み上げで、周りの目を気にしすぎる意識があるのではないか。そういうところを、セミナーに参加して何とか強くなって頑張ってもらいたいと思う。

## 議題2 第3次福井県男女共同参画計画（仮称）の策定について

### 【事務局説明】

(委員)

男性の育休について、県の意識調査で約7割の男性が「男性も育児休暇を取得すべきである」と考えている。これはすごい数だと思うが、反対に実際に育休をとっている男性は1～2%。このギャップがなぜなのかということを考えながら対策を講じていかなければならないと思う。

(委員)

女性があまり管理職になりたがらない理由として、責任が重くなるとか、やるべき仕事が増えるとか、かなり後ろ向きな意見がこんなに高いということに驚いた。以前、21世紀職業財団が行った調査を見ても、昇進意欲などのモチベーションの維持に関して、入社当初の上司の教育の仕方というのが非常に重要で、どういう教育をするかによってモチベーションがどんどん下がってしまう。福井はすごく教育県だということで、かなり進学率も高いし優秀な女性が多いにも関わらず、こういう結果になっているということは、先ほどの小学校からの教育が必要だということと同様に、就職してからも、入った時から男性と変わらない教育をしていただくということが必要かと思う。トップに対する働きかけ、社長にダイレクトにそういう重要性を訴えていくということも必要だと思う。

それと関連して、ワークライフバランスの関係で、助成金なども県の方で非常に充実した施策を行っていると思うが、短時間勤務をとった人への賃金の配慮等や、様々な施策がすべて1歳までの育児休業をとった場合を条件としたり、1歳以上の休業をすごく奨励した形になっている。確かに今の30代の女性は、育児休業を長く取りたいという人が多いということは現実としてあるが、やはり長くとればとるほど、今度は職場復帰するのがなかなか大変という問題もある。夫の方もとれば半分半分で、会社にいない時期が短ければ、キャリアアップも少し楽になるという部分もある。現実問題の解消が先か、長い目で見たときに、あまり長い育児休業を奨励する施策はキャリア形成には望ましくないという問題もあり、非常にバランスをとるのが難しいところだと思う。身近な対策とあわせて中長期的な対策として、ワークライフバランスに対する施策も検討すると良いと感じた。

それから、意識調査は非常によいと思うが、この調査数では難しいのかもしれないが、例えば嶺北、嶺南など地域格差があるのかな、というのも気になる。地域格差があるのであれば、アプ

ローチの仕方も地域ごとに考える必要がある。都市部と同じような話を地方でやっていっても、あまり訴えかけが薄くなるのではないかという気もするので、そういう分析も行うと良いと思う。

(委員)

私も地域代表という形で今回参加しているが、集落で自治会長はやはり女性が引いてしまう。やはり受けたくないとか、昔からのしきたりというのもあって、周囲からの目というのも結構あって、そういう仕事はしたくないという人がほとんど。これまで、男女共同参画について、国・県・市町でいろいろな形で推進してきたが、今、市町の方では、男女共同参画が重要視されていない。確かに今の若い方は、男女共同参画を十分意識しているし、できている。ただ、市町の方では、男女共同参画をもう少し地域から進めようという意識を持っていても、市町の担当者の方が消極的である。できれば、県の方でももう少し後押ししてもらえると、私たちが活動がしやすい。そういうところをもう少し次の計画で取り組んでほしい。

また、一般家庭の話になるが、高校生の息子を持つお母さんだが、子どもの頃から「共同生活なんだから、あなたもできることはきちんとしなさいよ」というように家庭で教えている。お母さんの思いと言うのは、これから結婚した時に自分もできることをするようにしなさいよ、というのをしっかり家庭で教えている。そういうお母さんたちを増やすような施策も行っていただきたい。お母さんを育てる上で、地域社会で勉強会をもっともっと進めていくと良いと思う。

(委員)

福井県の意識調査は、非常に内容豊かでおもしろい調査をされていると思うし、評価したいと思う。行政はいろいろな調査をやっているが、結局単純集計しか行われず、質問項目間の関係というところまできちんと分析しないのがほとんどだと思う。それをやられていることによって、ものすごくたくさん情報が引き出されるので、非常に素晴らしく、高く評価したいと思う。

また、この調査は、5年に1回とかいうスパンでされる調査だと思うので、念のために記録にとどめておいていただきたいと思うが、先ほど委員の方から嶺北とか嶺南とか都市部と非都市部でいろいろ差があるのではないかと、そういう分析もしてはどうかというお話があったが、アンケートの調査票にそういう項目が入っていないと、事後的に「これ、やったらよかった」と思ってもできない。今回の調査項目に含まれていないので、5年後にされる時には、そういう項目を入れる必要がある。

### **議題3 その他（ふくい女性活躍支援ポータルサイトについて）**

**【事務局報告】**